

# 基本計画書

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシヤン ジョウクワダク								
フリガナ大学の名称	ジョウクワコクサイダイガクダク								
大学本部の位置	千葉県東金市求名1番地								
大学の目的	城西国際大学大学院は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を深めて文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	健康科学研究科は、保健・医療の分野を横断し、現代の健康問題に対応することができる総合的視野を養い、これまで培ってきた自身の専門性を掘り下げ、健康の構成要素を追求し、健康を科学的に研究できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 福祉総合学部 理学療法学科 看護学部 看護学科  14条特例の実施
	健康科学研究科 [Graduate School of Health Sciences] 健康科学専攻 [Course of Health Sciences] 計	2年	8人	—年次人	16人	修士(健康科学) 【Master of Health Sciences】	令和5年4月 第1年次	千葉県東金市求名1番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	環境社会学部環境社会学科（廃止） ※平成30年4月学生募集停止 人文科学研究科 女性学専攻〔定員減〕 (△8) (令和5年4月) ※健康科学研究科設置に伴い上記専攻より入学定員を移行する。 薬学部医療薬学科〔定員減〕 (△20) (令和4年7月届出予定) 経営情報学部総合経営学科（東京紀尾井町キャンパス） 〔定員増〕 (10) (3年次編入学定員) (10) メディア学部メディア情報学科（東京紀尾井町キャンパス） 〔定員増〕 (10) (3年次編入学定員) (10)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	健康科学研究科健康科学専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		21科目	6科目	0科目	27科目	30単位			
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	健康科学研究科 健康科学専攻(修士課程)	12 (12)	9 (9)	0 (0)	10 (10)	31 (31)	0 (0)	0 (0)
		計	12 (12)	9 (9)	0 (0)	10 (10)	31 (31)	0 (0)	— (—)
	既設分	人文科学研究科 比較文化専攻(博士後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		人文科学研究科 国際文化専攻(修士課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		人文科学研究科 女性学専攻(修士課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)
		人文科学研究科 グローバルコミュニケーション専攻(修士課程)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	4 (4)
		経営情報学研究科 起業マネジメント専攻(博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		経営情報学研究科 起業マネジメント専攻(修士課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	30 (30)
		ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻(修士課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	12 (12)
		福祉総合学研究科 社会福祉専攻(修士課程)	8 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	11 (11)
		薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)	15 (15)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
		国際アドミニストレーション研究科 国際アドミニストレーション専攻(修士課程)	5 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	3 (3)
計	74 (72)	31 (31)	0 (0)	0 (0)	105 (103)	0 (0)	— (—)		
合計	62 (61)	34 (34)	0 (0)	10 (10)	105 (104)	0 (0)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		98 (98)	14 (14)	112 (112)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	0 (0)	4 (4)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計		102 (102)	14 (14)	116 (116)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	176,452 m <sup>2</sup>	5,496 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	181,948 m <sup>2</sup>	東金キャンパス			
	運 動 場 用 地	12,925 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	12,925 m <sup>2</sup>	紀尾井町キャンパス			
	小 計	189,377 m <sup>2</sup>	5,496 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	194,873 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	13,451 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13,451 m <sup>2</sup>				
	合 計	202,828 m <sup>2</sup>	5,496 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	208,324 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		72,794 m <sup>2</sup> ( 72,794 m <sup>2</sup> )	17,383 m <sup>2</sup> ( 17,383 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	90,177 m <sup>2</sup> ( 90,177 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	241 室	99 室	48 室	9 室 (補助職員 0人)	3 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		健康科学研究科 健康科学専攻		31 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	健康科学研究科 健康科学専攻	29,310 [3,367] (28,660 [3,217])	31,186 [29,635] (31,186 [29,635])	31,092 [29,631] (31,092 [29,631])	460 (460)	1,482 (1,482)	78 (78)		
	計	29,310 [3,367] (28,660 [3,217])	31,186 [29,635] (31,186 [29,635])	31,092 [29,631] (31,092 [29,631])	460 (460)	1,482 (1,482)	78 (78)		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,285 m <sup>2</sup>	864 席		377,166				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		7,565 m <sup>2</sup>	野 球 場 2 面 サ ッ カ ー 場 1 面 テ ニ ス コ ー ト 3 面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次
		教員 1 人当り研究費等		教授 597千円 准教授 623千円 助教 574千円	教授 597千円 准教授 623千円 助教 574千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		共 同 研 究 費 等		702千円	702千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		図 書 購 入 費	2,050千円	1,350千円	1,350千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		設 備 購 入 費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,050千円	780千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			学 生 納 付 金 で 不 足 す る 経 費 は、入 学 検 定 料 収 入 等 の 新 設 す る 研 究 科 に 係 る 収 入 及 び 健 康 科 学 研 究 科 設 立 準 備 資 金 か ら 充 当 す る。 健康科学研究科設立準備資金 10,000千円						

大学等の名称	城西国際大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	経営情報学部 総合経営学科	4	400	3年次 20人	1,640	学士 (経営情報)	1.00	平成17 年度	千葉県東金市求名 1番地 東京都千代田区 紀尾井町3番地26号
	国際人文学部 国際文化学科	4	80	-	320	学士 (国際文化)	1.01 1.07	平成20 年度	千葉県東金市求名 1番地
	国際交流学科	4	120	3年次 10人	500	学士 (国際交流)	0.97	平成20 年度	同上
	福祉総合学部 福祉総合学科	4	140	3年次 5人	570	学士 (福祉総合)	0.72 0.55	平成19 年度	同上
	理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法)	1.01	平成28 年度	同上
	薬学部 医療薬学科	6	130	-	780	学士 (薬学)	0.79	平成18 年度	同上
	メディア学部 メディア情報学科	4	360	3年次 20人	1,480	学士 (メディア情報学)	1.03	平成17 年度	千葉県東金市求名 1番地 東京都千代田区 平河町2丁目3番20号
	観光学部 観光学科	4	100	-	400	学士 (観光学)	0.84	平成18 年度	千葉県東金市求名 1番地
	看護学部 看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.06	平成24 年度	同上
	大学院 人文科学研究科 比較文化専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (比較文学)	0.49	平成10 年度	同上
	国際文化専攻 (修士課程)	2	15	-	30	修士 (国際文化)	0.73	平成8 年度	同上
	女性学専攻 (修士課程)	2	15	-	30	修士 (女性学)	0.23	平成8 年度	同上
	グローバルコミュニケーション 専攻 (修士課程)	2	25	-	50	修士 (国際文化)	0.90	平成25 年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号
	経営情報学研究科 起業マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (経営学)	0.77	平成12 年度	千葉県東金市求名 1番地
	起業マネジメント専攻 (修士課程)	2	36	-	72	修士 (経営学)	0.99	平成10 年度	千葉県東金市求名 1番地 東京都千代田区 紀尾井町3番地26号
	ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 (修士課程)	2	30	-	60	修士 (経営学)	1.08	平成17 年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号
	福祉総合学研究科 福祉社会専攻 (修士課程)	2	25	-	50	修士 (福祉社会)	0.48	平成17 年度	千葉県東金市求名 1番地
	薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)	4	3	-	12	博士 (薬学)	0.16	平成24 年度	千葉県東金市求名 1番地
	国際アドミニストレーション研究科 国際アドミニストレーション専攻 (修士課程)	2	35	-	70	修士 (国際アドミニストレーション)	1.01	平成25 年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号

<p>附属施設の概要</p>	<p>目的 : 本学の国際教育・交流活動等を支援する。  名称 : 国際教育センター  所在地 : 千葉県東金市求名1番地  設置年月 : 平成20年2月  規模等 : 学校法人城西大学が設置する(城西国際大学、城西大学、城西短期大学)3大学を統括する。</p> <p>目的 : 本学の情報教育活動等を支援する。  名称 : 情報科学研究センター  所在地 : 千葉県東金市求名1番地  設置年月 : 平成4年4月  規模等 : 学校法人城西大学が設置する(城西国際大学、城西大学、城西短期大学)3大学を統括する。</p> <p>目的 : 本学の薬学教育研究を支援する。  名称 : 城西国際大学生命科学研究センター  所在地 : 千葉県東金市求名1番地  設置年月 : 平成16年4月  規模等 : 建物430㎡(薬学研究棟内)、飼育室7室、実験室2室、洗浄室1室、飼料倉庫1室、廃棄物保管庫1室を設置する。</p>	
----------------	---	--

## 教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学研究科健康科学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	健康科学総合特論	1前	2			○			5	1					オムニバス
	健康科学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1			3		オムニバス 共同(一部)
	健康科学特論Ⅱ	1前		2		○			2	2			1		オムニバス
	健康科学特論Ⅲ	1前		2		○			1				3		オムニバス
	健康科学特論Ⅳ	1前		2		○			1						
	健康科学特論Ⅴ	1前		2		○			1	1					オムニバス 共同(一部)
	健康科学特論Ⅵ	1前		2		○				1					
小計(7科目)		—	2	12	0				11	6	0	7	0		
健康 科学 基盤 科目	実践カウンセリング特論	1・2前		2		○			1						
	マネジメント特論	1・2前		2		○				1					
	地域包括ケア特論	1・2前		2		○			1						
	バイオサイエンス技術特論	1・2後		2		○				1					
	臨床工学特論	1・2後		2		○			1						
小計(5科目)		—	0	10	0				3	2	0	0	0		
研 究 目 基 礎	統計学基礎特論	1後	2			○			1						オムニバス 共同(一部)
	研究方法特論	1後	2			○			5	1					
	小計(2科目)		—	4	0	0				6	1	0	0	0	
専 門 科 目	健康薬科学特論	1後		2		○			4	2			1		オムニバス
	健康薬科学演習	2前		4			○		4	2			1		オムニバス
	臨床看護学特論	1後		2		○			2	1			2		オムニバス
	臨床看護学演習	2前		4			○		2	1			2		オムニバス 共同(一部)
	生涯発達学特論	1後		2		○			2	3					オムニバス 共同(一部)
	生涯発達学演習	2前		4			○		2	3					共同
	臨床リハビリテーション学特論	1後		2		○			1	1			3		オムニバス 共同(一部)
	臨床リハビリテーション学演習	2前		4			○		1	1			3		オムニバス 共同(一部)
	地域系リハビリテーション学特論	1後		2		○			1				3		オムニバス
	地域系リハビリテーション学演習	2前		4			○		1				3		オムニバス 共同(一部)
	運動機能障害系リハビリテーション学特論	1後		2		○			2	2			1		オムニバス
	運動機能障害系リハビリテーション学演習	2前		4			○		2	2			1		オムニバス
小計(12科目)		—	0	36	0				24	18	0	20	0		
特 究 別 研	特別研究	2通	10					○	12	8			1		
	小計(1科目)		—	10	0	0				12	8	0	1	0	
合計(27科目)			—	16	58	0			56	35	0	28	0		
学位又は称号		修士(健康科学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 共通科目群の選択科目より2科目4単位選択必修。 2. 健康科学基盤科目より2科目4単位選択必修。 3. 専門科目より特論1科目2単位及び演習1科目4単位選択必修。 必修科目4科目16単位及び上記3つの要件を含んで30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格すること。(履修科目の登録の上限: 特になし)								1 学年の学期区分			2期				
								1 学期の授業期間			13週				
								1 時限の授業時間			105分				

教育課程等の概要															
(福祉総合学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1前	1			○									兼1
	SDGs × 大学生	1後		1		○									兼1
	Fundamentals of English I	1前	2			○									兼6 オムニバス
	Fundamentals of English II	1前		2		○									兼1
	Oral Fluency I	1後	2			○									兼7 オムニバス
	Oral Fluency II	1後		2		○									兼1
	TOEIC Preparation A	1前		2		○									兼1
	TOEIC Preparation B	1前		2		○									兼1
	TOEIC Preparation C	1後		2		○									兼1
	TOEIC Preparation D	1後		2		○									兼1
	English for Specific Purposes A	1前		2		○									兼1
	English for Specific Purposes B	1後		2		○									兼1
	English for Advanced Studies A	1前		2		○									兼1
	English for Advanced Studies B	1後		2		○									兼1
	中国語I	1前		2		○									兼1
	中国語II	1後		2		○									兼1
	韓国語I	1前		2		○									兼1
	韓国語II	1後		2		○									兼1
	スペイン語I	1前		2		○									兼1
	スペイン語II	1後		2		○									兼1
	ドイツ語I	1前		2		○									兼1
	ドイツ語II	1後		2		○									兼1
	フランス語I	1前		2		○									兼1
	フランス語II	1後		2		○									兼1
	ハンガリー語I	1前		2		○									兼1
	ハンガリー語II	1後		2		○									兼1
	ポーランド語I	1前		2		○									兼1
	ポーランド語II	1後		2		○									兼1
	チェコ語I	1前		2		○									兼1
	チェコ語II	1後		2		○									兼1
	データ分析の基礎(解析)	1前		2		○									兼1
	データ分析の基礎(線形代数)	1後		2		○									兼1
	自然科学概論A(物質・宇宙・エネルギー)	1前		2		○									兼1
	自然科学概論B(生命現象の理解とその応用-生命科学)	1後		2		○									兼1
	自然科学概論C(環境科学)	1後		2		○									兼1
	食環境論	1後		2		○									兼1
	香りと環境	1後		2		○									兼1
	情報セキュリティA	1後		2		○									兼1
	情報社会と情報倫理	1後		2		○									兼1
	人工知能論	1後		2		○									兼1
	データサイエンスI	1前		2		○									兼1
	データサイエンスII	1後		2		○									兼1
	統計学	1前		2		○									兼1
	身体の理解	1前		2		○							1		兼1
	デジタルアプリA	1前	2			○									兼1
デジタルアプリB	1後		2		○									兼1	
生物からみた環境の仕組み - 生態学	1前		2		○									兼1	
インターネット配信	1前		2		○									兼1	
エリアスタディーズA	1前		2		○									兼1	
エリアスタディーズB	1後		2		○									兼1	
観光の現在と未来	1前		2		○									兼1	
ヘルスツーリズム	1後		2		○									兼1	
社会心理学	1後		2		○									兼1	
生活と文化	2前		2		○									兼1	
生涯スポーツ概論	1前		2		○									兼1	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	1前		2		○									兼1	
	ボランティア論	1後		2		○									兼1	
	国際日本学	1前		2		○									兼1	
	コミュニケーションの基礎	1後		2		○									兼1	
	域学共創プロジェクトA	1前		2			○								兼1	
	域学共創プロジェクトB	1前		2			○								兼1	
	域学共創プロジェクトC	1前		2			○								兼1	
	域学共創プロジェクトD	1前		2			○								兼1	
	域学共創プロジェクトE	1後		2			○								兼1	
	域学共創プロジェクトF	1前		2			○						1			
	域学共創プロジェクトG	1前		2			○			1						
	史学概論	1前		2			○									兼1
	日本の歴史A	1前		2			○									兼1
	日本の歴史B	1後		2			○									兼1
	西洋史概論	1後		2			○									兼1
	アジア史概論	1後		2			○									兼1
	現代史入門	1後		2			○									兼1
	人類とモノづくり	1前		2			○									兼1
	房総の文化と歴史	1後		2			○									兼1
	科学史	1前		2			○									兼1
	映像メディア史	1後		2			○									兼1
	音楽史	1後		2			○									兼1
	政治学入門	1前		2			○									兼1
	国際関係論	2前		2			○									兼1
	経済学入門	1前		2			○									兼1
	経済原論A	1前		2			○									兼1
	経済原論B	1後		2			○									兼1
	社会と経営	1後		2			○									兼1
	社会と会計	1前		2			○									兼1
	マーケティング論	1後		2			○									兼1
	広告戦略論	1後		2			○									兼1
	社会学	1後		2			○									兼1
	社会調査	2前		2			○									兼1
	法学概論	1後		2			○									兼1
	日本国憲法	1前		2			○									兼1
	民法A	2前		2			○									兼1
	商法	2前		2			○									兼1
	著作権	1前		2			○									兼1
	社会福祉学A	1前		2			○			1						
	社会福祉学B	2後		2			○									兼1
	経営情報基礎論A	1前		2			○									兼1
	地理学A	1前		2			○									兼1
	地理学B	1後		2			○									兼1
	世界遺産のいま	1後		2			○									兼1
	西洋美術	1前		2			○									兼1
	美学・芸術学	1前		2			○									兼1
	表象文化研究	1後		2			○									兼1
	日本の現代文化	1後		2			○									兼1
	日本の伝統文化	1前		2			○									兼1
	日本文学概論	1前		2			○									兼1
日本の文学(古典)	2前		2			○									兼1	
日本の文学(近・現代)	2前		2			○									兼1	
日本語表現	1前		2			○									兼1	
文学のはじまりー古代ギリシア・ローマの文学	1後		2			○									兼1	
世界の文学	1前		2			○									兼1	
演劇研究	1前		2			○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学部共通 基盤科目群	古典芸能研究	1前		2		○									兼1
	教育学	1前		2		○			1						兼1
	心理学	1後		2		○									兼1
	基礎の数学	1後		2		○									兼1
	ジェンダー論	1後		2		○									兼1
	根拠への問いー哲学へのとびら	1後		2		○									兼1
	宗教学概論	1前		2		○									兼1
	倫理学概論	1後		2		○									兼1
	文化人類学	1前		2		○									兼1
	異文化適応論	1前		2		○									兼1
	比較文化概論	1前		2		○									兼1
	言語学概論	1前		2		○									兼1
全学部共通 基盤科目群	スポーツ科学A	1前		1			○								兼1
	スポーツ科学B	1後		1			○								兼1
	スポーツ科学IA(ダンス)	1前		1			○								兼1
	スポーツ科学IB(ダンス)	1後		1			○								兼1
	しゃべりのスキルUp I	1前		2		○									兼1
	小計 (128科目)	—	7	243	0		—		3	0	0	2	0		
キャリア形成 科目群	基礎ゼミ I	1通	1			○			7	4		6			共同
	基礎ゼミ II	2前	1			○			7	4		6			共同
	理学療法ゼミ	3前	1			○			7	4		6			共同
	理学療法海外研修	1後	1				○		1	1					集中・共同
	グローバル研修A	2・3前		1			○		1	1					集中・共同
	グローバル研修B	2・3前		1			○		1	1					集中・共同
小計 (6科目)	—	4	2	0		—		24	15	0	18	0			
専門基礎 科目群 I	基礎物理学	1前	1			○						1			
	医療コミュニケーション論	1前	2			○									兼1
	医療倫理学	1前	2			○									兼1
	小計 (3科目)	—	5	0	0		—		0	0	0	1	0		
専門基礎 科目群 II	人体の構造	1前	2			○				1					
	人体の構造演習	1前	2				○			2					共同
	人体の機能	1前	2			○			1						共同
	人体の機能演習	1後	2				○		1			1			共同
	運動学 I	1前	2			○				1					
	運動学 II	1後	2			○				1					
	運動学演習	2前	1				○		1	1		1			オムニバス
	人間発達学	1後	2			○						1			
	臨床心理学	2後	1			○									兼1
	機能解剖学	3前		1		○						1			
小計 (10科目)	—	16	1	0		—		3	6	0	4	0			
専門基礎 科目群 III	整形外科系医療学	2前	2			○									兼1
	内科系医療学	2前	2			○									兼1
	精神医学系医療学	2前	1			○									兼1
	公衆衛生学	3前	1			○			1						兼1
	病理学	2前	2			○									兼1
	神経内科系医療学	2前	2			○									兼1
	薬学概論	2前	1			○									兼1
	医療概論	2後	2			○						1			兼2 オムニバス
	老年学	3前	1			○			1						
	障害予防概論	3後	1			○			1						
小計 (10科目)	—	15	0	0		—		3	0	0	1	0			
専門基礎 科目群 IV	リハビリテーション科学	1後	2			○			1						
	保健医療福祉概論	2前	1			○						1			
	多職種間連携教育	3前	1			○						1			
	多職種間連携教育実習	3前		1				○	1			1			オムニバス
	生活環境論	3前		1		○						1			
	理学療法教育法	4後		2		○									兼1
	小計 (6科目)	—	4	4	0		—		2	0	0	4	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群Ⅰ	理学療法概論	1前	2			○			1						
	理学療法研究法	3前	1			○			1						
	世界の理学療法	3後		1		○				1					
	医療統計学	3前		1		○			1						
	卒業研究Ⅰ	3後		1			○		5	4		6			共同
	卒業研究Ⅱ	4前		1			○		5	4		6			共同
	基礎理学療法学	2前	2				○		1						
	基礎理学療法学演習	2前	1					○		1			1		共同
	バイオメカニクス論	3前		1			○		1				1		オムニバス
	小計(9科目)	—	6	5	0				15	10	0	14	0		
専門科目群Ⅱ	職業倫理管理学	4後	2			○			1						
	基礎理学療法評価学	1後	2			○			1						
	基礎理学療法評価学実習	2前	1					○	1			2			共同
	疾患別理学療法評価学	2前	2				○		1						共同
	疾患別理学療法評価学演習(神経系)	2後	1					○	1	1					共同
	疾患別理学療法評価学演習(運動器系)	2後	1					○	1			1			共同
	疾患別理学療法評価学演習(内部障害系)	2後	1					○	1			2			共同
	疾患別理学療法治療学	2後	2				○		1	1		1			オムニバス
	疾患別理学療法治療学実習(神経系)	3前	1					○	1			1			共同
	疾患別理学療法治療学実習(運動器系)	3前	1					○	1			1			共同
	疾患別理学療法治療学実習(内部障害系)	3前	1					○				2			共同
	日常生活活動学	2前	1				○		1						
	日常生活活動学実習	2後	1					○	1			1			共同
	義肢装具学	2後	2				○		1						
	義肢装具学実習	3前	1					○	1			1			共同
	物理療法学	2前	2				○		1						
	物理療法学実習	2後	1					○	1	1					共同
	発達系理学療法学	3前	2				○								兼3 オムニバス
	スポーツ系理学療法学	3後	1				○		1						
	理学療法学セミナーⅠ	2後	1					○	1			1			共同
	理学療法学セミナーⅡ	3後	1					○	1	1					共同
	理学療法技術演習(発達・高次脳機能)	3後		1				○	1						オムニバス
	理学療法技術演習(徒手技術)	3後		1				○		1		1			オムニバス
	理学療法技術演習(呼吸・循環・代謝)	3後		1				○				1			
	理学療法技術演習(先進医療機器)	3後		1				○		2					オムニバス
	理学療法技術演習(スポーツ)	3後		1				○	1				1		オムニバス
	地域理学療法学	3前	2				○						1		
	地域理学療法学演習	3後	1				○		1				1		オムニバス
小計(28科目)	—	31	5	0				21	7	0	18	0			
専門科目群Ⅲ	理学療法学総合演習A	4前	1					○		2					オムニバス
	理学療法学総合演習B	4後	2					○		2		2			共同・オムニバス
	臨床実習Ⅰ(見学)	1前	1						6	4		6			共同
	臨床実習Ⅱ(検査・測定)	2後	3						6	4		6			共同
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4						6	4		6			共同
	臨床実習Ⅳ(総合)	4前	10						6	4		6			共同
	地域実習	4後	2						6	4		6			共同
	小計(7科目)	—	23	0	0				30	24	0	32	0		
合計(197科目)		—	111	260	0				101	62	0	94	0		
学位又は称号		学士(理学療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 全学部共通基礎科目群より、7単位必修を含み、15単位以上選択必修 2. キャリア形成科目群より、4単位必修 3. 専門基礎科目群Ⅰより、5単位必修 4. 専門基礎科目群Ⅱより、16単位必修 5. 専門基礎科目群Ⅲより、15単位必修 6. 専門基礎科目群Ⅳより、4単位必修 7. 専門科目群Ⅰより、6単位必修を含み、8単位以上選択必修 8. 専門科目群Ⅱより、31単位必修を含み、34単位以上選択必修 9. 専門科目群Ⅲより、23単位必修 10. 卒業要件単位数は124単位 (履修科目の上限：年間42単位未満)								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		13週					
								1時限の授業時間		105分					

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1前	1			○								兼1
	SDGs × 大学生	1後		1		○								兼1
	Fundamentals of English I	1前	2			○								兼6 オムニバス
	Fundamentals of English II	1前		2		○								兼1
	Oral Fluency I	1後	2			○								兼7 オムニバス
	Oral Fluency II	1後		2		○								兼1
	TOEIC Preparation A	1前		2		○								兼1
	TOEIC Preparation B	1前		2		○								兼1
	TOEIC Preparation C	1後		2		○								兼1
	TOEIC Preparation D	1後		2		○								兼1
	English for Specific Purposes A	1前		2		○								兼1
	English for Specific Purposes B	1後		2		○								兼1
	English for Advanced Studies A	1前		2		○								兼1
	English for Advanced Studies B	1後		2		○								兼1
	中国語I	1前		2		○								兼1
	中国語II	1後		2		○								兼1
	韓国語I	1前		2		○								兼1
	韓国語II	1後		2		○								兼1
	スペイン語I	1前		2		○								兼1
	スペイン語II	1後		2		○								兼1
	ドイツ語I	1前		2		○								兼1
	ドイツ語II	1後		2		○								兼1
	フランス語I	1前		2		○								兼1
	フランス語II	1後		2		○								兼1
	ハンガリー語I	1前		2		○								兼1
	ハンガリー語II	1後		2		○								兼1
	ポーランド語I	1前		2		○								兼1
	ポーランド語II	1後		2		○								兼1
	チェコ語I	1前		2		○								兼1
	チェコ語II	1後		2		○								兼1
	データ分析の基礎(解析)	1前		2		○								兼1
	データ分析の基礎(線形代数)	1後		2		○								兼1
	自然科学概論A(物質・宇宙・エネルギー)	1前		2		○								兼1
	自然科学概論B(生命現象の理解とその応用-生命科学)	1後		2		○								兼1
	自然科学概論C(環境科学)	1後		2		○								兼1
	食環境論	1後		2		○								兼1
	香りと環境	1後		2		○								兼1
	情報セキュリティA	1後		2		○								兼1
	情報社会と情報倫理	1後		2		○								兼1
	人工知能論	1後		2		○								兼1
	データサイエンスI	1前		2		○								兼1
	データサイエンスII	1後		2		○								兼1
	統計学	1前		2		○								兼1
身体の理解	1前		2		○								兼1	
デジタルアプリA	1前	2			○								兼1	
デジタルアプリB	1後		2		○								兼1	
生物からみた環境の仕組み-生態学	1前		2		○								兼1	
インターネット配信	1前		2		○								兼1	
エリアスタディーズA	1前		2		○								兼1	
エリアスタディーズB	1後		2		○								兼1	
観光の現在と未来	1前		2		○								兼1	
ヘルスツーリズム	1後		2		○								兼1	
社会心理学	1後		2		○								兼1	
生活と文化	2前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	1前		2		○									兼1
	スポーツ社会学	1前		2		○									兼1
	ボランティア論	1後		2		○									兼1
	国際日本学	1前		2		○									兼1
	コミュニケーションの基礎	1後		2		○									兼1
	域学共創プロジェクトA	1前		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトB	1前		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトC	1前		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトD	1前		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトE	1後		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトF	1前		2			○								兼1
	域学共創プロジェクトG	1前		2			○			1					兼1
	史学概論	1前		2			○								兼1
	日本の歴史A	1前		2			○								兼1
	日本の歴史B	1後		2			○								兼1
	西洋史概論	1後		2			○								兼1
	アジア史概論	1後		2			○								兼1
	現代史入門	1後		2			○								兼1
	人類とモノづくり	1前		2			○								兼1
	房総の文化と歴史	1後		2			○								兼1
	科学史	1前		2			○								兼1
	映像メディア史	1後		2			○								兼1
	音楽史	1後		2			○								兼1
	政治学入門	1前		2			○								兼1
	国際関係論	2前		2			○								兼1
	経済学入門	1前		2			○								兼1
	経済原論A	1前		2			○								兼1
	経済原論B	1後		2			○								兼1
	社会と経営	1後		2			○								兼1
	社会と会計	1前		2			○								兼1
	マーケティング論	1後		2			○								兼1
	広告戦略論	1後		2			○								兼1
	社会学	1後		2			○								兼1
	社会調査	2前		2			○								兼1
	法学概論	1後		2			○								兼1
	日本国憲法	1前		2			○								兼1
	民法A	2前		2			○								兼1
	商法	2前		2			○								兼1
	著作権	1前		2			○								兼1
	社会福祉学A	1前		2			○								兼1
	社会福祉学B	2後		2			○								兼1
	経営情報基礎論A	1前		2			○								兼1
	地理学A	1前		2			○								兼1
	地理学B	1後		2			○								兼1
	世界遺産のいま	1後		2			○								兼1
	西洋美術	1前		2			○								兼1
	美学・芸術学	1前		2			○								兼1
	表象文化研究	1後		2			○								兼1
	日本の現代文化	1後		2			○								兼1
	日本の伝統文化	1前		2			○								兼1
日本文学概論	1前		2			○								兼1	
日本の文学(古典)	2前		2			○								兼1	
日本の文学(近・現代)	2前		2			○								兼1	
日本語表現	1前		2			○								兼1	
文学のはじまりー古代ギリシア・ローマの文学	1後		2			○								兼1	
世界の文学	1前		2			○								兼1	
演劇研究	1前		2			○								兼1	
古典芸能研究	1前		2			○								兼1	
教育学	1前		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学部共通 基盤科目群	心理学	1後		2		○									兼1
	基礎の数学	1後		2		○									兼1
	ジェンダー論	1後		2		○									兼1
	根拠への問いー哲学へのとびら	1後		2		○									兼1
	宗教学概論	1前		2		○									兼1
	倫理学概論	1後		2		○									兼1
	文化人類学	1前		2		○									兼1
	異文化適応論	1前		2		○									兼1
	比較文化概論	1前		2		○									兼1
	言語学概論	1前		2		○									兼1
	スポーツ科学A	1前		1			○								兼1
	スポーツ科学B	1後		1			○								兼1
	スポーツ科学IA(ダンス)	1前		1			○								兼1
	スポーツ科学IB(ダンス)	1後		1			○								兼1
	しゃべりのスキルUp I	1前		2		○									兼1
小計 (128科目)		—	7	243	0	—	—	—	1	0	0	0	0		
リテラシー 科目群	医療英語	4前		2		○									兼1
	世界の中の日本	1前	1			○			1						
	人間関係論	1前	2			○			1						
小計 (3科目)		—	3	2	0	—	—	2	0	0	0	0			
看護 基盤科目群	看護情報学	1後	1			○									兼1
	科学基礎	1前	1			○			1	1		2			オムニバス
	小計 (2科目)		—	2	0	0	—	—	1	1	0	2	0		
キャリア 形成科目群	プロジェクト教育A	1通	1				○		1						
	プロジェクト教育B	2通	1				○					1			
	未来講座-これからの看護	4前		1		○			1						
	小計 (3科目)		—	2	1	0	—	—	2	0	0	1	0		
専門基礎 科目群 I	死生学	4前		2		○									兼1
	社会福祉原論	1前	2			○			1						
	児童福祉論	1後		1		○			1						
	高齢者福祉論	2後		1		○									兼1
	保健医療福祉行政論	2後		2		○									兼1
	ライフステージIPE A	2前	1			○				1					
	ライフステージIPE B	2前	1			○				1		1			オムニバス
	ライフステージIPE C	3前		1				○	1	1		1	1		共同
	関係法規	4前	1			○									兼1
	保健医療統計学	3前	2			○			1						
	地域母子保健A	3前		1		○			1	1					オムニバス
	学校保健	3前		2		○									兼1
家族発達支援論	2後		1		○				1						
小計 (13科目)		—	7	11	0	—	—	5	5	0	2	1			
専門基礎 科目群 II	医学概論	1後		1		○			1						
	人体の構造機能A	1前	2			○						1			
	人体の構造機能B	1後	2			○						1			兼1
	オムニバス														
	疾病治療学A	2前	2			○			1						
	疾病治療学B	2後	2			○			1						
	臨床栄養学	1後	2			○			1						
	疫学	1後	2			○									兼1
	病原微生物学	1後	2			○			1						
	臨床生化学	1後	1			○			1						
	臨床心理学	1後		1		○									兼1
	臨床免疫学	1後		2		○			1						
	周産期医学A	2前	1			○			1						
	周産期医学B	2前		1		○			1						
医用工学概論	1後		2		○			1							
感染症学	2前	1			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群Ⅱ	臨床薬理学	2前	2			○			1						
	薬学系演習	2後	1				○		1						
	臨床薬物動態論	2後	1			○			1						
	ゲノム医療	4後		2		○			2						オムニバス
	薬物療法管理論	4前		2		○			4	3		1			オムニバス
	東洋医学概論	4後		1		○			2						オムニバス
	小計 (21科目)	—	21	12	0				22	3	0	3	0		
専門科目群Ⅰ (基礎看護学)	看護学概論	1前	1			○			1						
	看護方法論A	2前	2			○			1	2		1	1	兼1 共同	
	看護方法論B	2後	1			○			1	2		1	2	兼1 共同	
	看護方法論演習A	1前	1				○		1	2		1	1	兼1 共同	
	看護方法論演習B	1後	2				○		1	2		1	1	兼1 共同	
	看護方法論演習C	2後	2				○		1	2		1	1	兼1 共同	
	看護方法論演習D	2後	1				○		1	2		1	2	兼1 共同	
	看護管理	4前	1			○			1						
	基礎看護学実習A	1後	1					○		1					
	基礎看護学実習B	2後	2					○	1	2		1	1		共同
	サービスマーケティング	1通	1					○	2						共同
小計 (11科目)	—	15	0	0				11	15	0	7	9			
専門科目群Ⅱ (専門看護学)	成人・老年看護学概論	1後	2			○			3						オムニバス
	クリティカルケア方法論	2後	2			○			1			1			共同
	クリティカルケア方法論演習	3前	1				○		1			1	1		共同
	クリティカルケア実習	3後	3					○	1			1	1		共同
	慢性疾患看護方法論	2後	2			○			1			2			オムニバス
	慢性疾患看護方法論演習	3前	1				○		1			2			オムニバス
	慢性疾患看護実習	3後	3					○	1			2			オムニバス
	老年看護方法論	2後	2			○			1	1					オムニバス
	老年看護方法論演習	3前	1				○			1					
	老年看護学実習	3後	2					○		1					
	母子看護学概論	2前	2			○			2	1					オムニバス
	母性看護方法論	2後	2			○			1						
	母性看護方法論演習	3前	1				○		1	1			1		オムニバス
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1			1		オムニバス
	小児看護方法論	2後	2			○			1			1			オムニバス
	小児看護方法論演習	3前	1				○		1			1	1		共同
	小児看護学実習	3後	2					○	1			1	1		共同
	精神看護学概論	1後	1			○			1			1			オムニバス
	精神看護方法論	2後	2			○			1			1			オムニバス
	精神看護方法論演習	3前	1				○		1			1			オムニバス
	精神看護学実習	3後	2					○	1			1			オムニバス
小計 (21科目)	—	37	0	0				15	13	0	16	6			
専門科目群Ⅲ (広域看護学)	地域・在宅看護概論	1後	1			○			1						
	地域・在宅看護方法論	2後	2			○			2			1			オムニバス
	地域・在宅看護方法論演習	3前	1				○		1			3			オムニバス
	公衆衛生看護学概論	2前	2			○			2			2			オムニバス
	地域・在宅看護実習	3後	2					○	2			3			オムニバス
	地域包括ケア実習	3後	1					○		1		1			共同
	グローバルヘルスA	1前	1					○	2	1		1			オムニバス
	グローバルヘルスB	2前		1				○		1					
	国際看護	4前		1		○			1						
	フォレンジック看護	4前		1		○			1						
	災害看護	4前	1			○									兼1
	災害看護演習	4前		1			○								兼1
	感染看護	3前	1			○			1			1			オムニバス
	終末期看護論	3前	2			○			2						オムニバス
小計 (14科目)	—	14	4	0				15	3	0	12	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群Ⅳ (統合看護学)	医療倫理学	3前	2			○									兼1
	看護研究方法論	3前	1			○			1						
	総合看護学演習A	4前	1				○		1						
	総合看護学演習B	4後	1				○		1						
	卒業論文	4通		2		○			1						
	フィールド教育	4通		1				○		1					
	地域母子保健実習A	4通		1				○		1		1			共同
	インターンシップ	4通		1				○		1					
	ライフステージIPE D	4通		1				○		1		1	1		共同
	地域母子保健実習B	4通		1				○		1	1	1	1		共同
小計(10科目)	—		5	7	0			—	6	4	0	3	1		
(自由科目群) (保健師課程)	健康支援と健康教育	2後			2	○			1			1			兼1
	地域診断と地域活動	3前			2	○			1			1			オムニバス
	公衆衛生看護活動論	2後			2	○			2			2			オムニバス
	公衆衛生看護活動論演習A	3前			1		○		1			2			オムニバス
	公衆衛生看護活動論演習B	4前			2		○		1			2			オムニバス
	健康政策論	4前			1	○						1			
	公衆衛生看護学実習	4通			3			○	2			3			オムニバス
小計(7科目)	—		0	0	13			—	8	0	0	12	0		
自由科目群 (助産師課程)	助産学概論	3前			1	○			1						兼3
	周産期医学C	3後			2	○			1	1					オムニバス
	助産診断・技術学A	4前			1	○				1					
	助産診断・技術学B	4前			3			○				1			
	助産診断・技術学C	3後			1	○			1						兼1
	助産診断・技術学D	4前			1	○				1					オムニバス
	助産診断・技術学E	4前			1	○			1						兼1
	助産診断・技術学F	4前			1			○	1						オムニバス
	ウィメンズヘルス支援論	3前			2	○			1	1					オムニバス
	助産管理	4通			1	○			1						兼1
	地域母子保健B	4前			1	○				1					オムニバス
	助産学実習A	4通			1			○	1	1		1			共同
	助産学実習B	4通			8			○	1	1		1			共同
周産期の家族支援	3前			1	○				1						
小計(14科目)	—		0	0	25			—	9	8	0	3	0		
自由科目群 (教職課程)	養護概説	3後			2	○									兼1
	教職論	1前			2	○									兼1
	教育原理	2前			2	○									兼1
	教育心理学	2前			2	○									兼1
	特別のニーズ教育論	3前			2	○									兼1
	教育課程論	1後			2	○									兼1
	教育制度	2前			2	○									兼1
	道德教育の理論と方法	1前			2	○									兼1
	教育方法論	1前			2	○									兼1
	特別活動と総合的な学習の時間	2前			2	○									兼1
	生徒指導	2前			2	○									兼1
	教育相談(カウンセリングを含む)	2後			2	○									兼1
	養護実習(事前及び事後指導を含む)	4通			5			○		1		1			オムニバス
	教職実践演習(養護)	4後			2			○		1					
小計(14科目)	—		0	0	31			—	0	2	0	1	0		
合計(27科目)	—		113	280	69			—	97	54	0	62	17		



学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 全学部共通基盤科目群より、7単位必修及び「中国語Ⅰ」又は「韓国語Ⅰ」のいずれか2単位を含み、12単位以上選択し修得すること 2. グローバルリテラシー科目群より、3単位修得すること 3. 看護基盤科目群より、2単位修得すること 4. キャリア形成科目群より、2単位修得すること 5. 専門基礎科目群Ⅰより、7単位修得すること 6. 専門基礎科目群Ⅱより、21単位修得すること 7. 専門科目群Ⅰより、15単位修得すること 8. 専門科目群Ⅱより、37単位修得すること 9. 専門科目群Ⅲより、14単位修得すること 10. 専門科目群Ⅳより、5単位必修の他、「フィールド教育」又は「地域母子保健実習A」のいずれか1単位及び「インターンシップ」「ライフステージIPE D」又は「地域母子保健実習B」のいずれか1単位を含み、7単位以上選択し修得すること 11. 上記5. 及び6. で修得した科目以外に専門基礎科目群Ⅰ・同Ⅱより4単位選択し修得すること 12. 上記9及び10で修得した科目以外に専門科目群Ⅲ・同Ⅳより2単位選択し修得すること 13. 卒業要件単位数は126単位 14. 保健師課程登録学生は、卒業に必要な単位の他、自由科目群（保健師課程）に定められた7科目13単位を修得すること 15. 助産師課程登録学生は、卒業に必要な単位の他、自由科目群（助産師課程）に定められた14科目25単位を修得すること 16. 教職課程登録学生は、卒業に必要な単位の他、別に定められた科目を修得すること （履修登録の上限：1年生及び2年生は年間49単位、3年生及び4年生は年間42単位）		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	13週
		1時限の授業時間	105分

## 授業科目の概要

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学研究科健康科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	健康科学総合特論	<p>国際生活機能分類は「健康状態」、3つの「生活機能」、2つの「背景因子」の各要素がそれぞれ影響し合って成り立っている。健康科学総合特論では、「健康」を「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」といった側面から大きく捉える(健康科学モデル)ことを学修する。これまでに培った自身の専門性というものを、深く掘り下げるだけではなく幅広く捉えることを学修することで、現場での問題解決能力を身につける。 (オムニバス方式／全13回)</p> <p>(① 谷内幸喜／3回) 国際生活機能分類の視点から「健康」を総合的かつ多角的に科学し、活動面から生じている生活機能の問題点に対する「健康科学モデル」を学修する。</p> <p>(② 竹内 一成／2回) 心身機能面・身体構造面から生じている生活機能の問題点に対する「健康科学モデル」を学修する。</p> <p>(③ 森藤 武／2回) 健康長寿のため運動を続けることは重要である。身体運動やスポーツ活動が健康、特に身体機能に及ぼす影響について概説するとともに、今後について展望する。</p> <p>(④ 竹内 弥彦／2回) 要介護状態になる要因の一つである高齢者の転倒を予防するための内的要因である姿勢制御機能に焦点をあて、姿勢制御機能の加齢変化や姿勢制御障害による生活機能低下を支援するための方策について学修する。</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代／2回) 個人・環境因子から生じている生活機能の問題点に対する「健康科学モデル」を学修する。</p> <p>(⑨ 大橋 優紀子／2回) 対象者、重要他者双方の「発達」及び「心理的健康」の観点から健康課題を捉え、支援の方法を検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康科学特論 I	<p>日常生活活動の低下に対するリハビリテーションアプローチで問題解決に当たる場合の「健康科学モデル」を学修する。具体的には、神経系疾患・運動器疾患・内部障害系疾患が原因で日常生活活動低下を呈している場合の問題解決能力を身につける。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(① 谷内 幸喜/1回) 問題点を明確にするために、国際生活機能分類の視点から、健康科学モデルを学習する。</p> <p>(① 谷内 幸喜・④ 原田 恭宏/4回) (共同) 国際生活機能分類の視点から、神経疾患に伴う日常生活活動低下事例の健康科学モデルを学習する。</p> <p>(⑬ 大西 忠輔・⑳ 横井 悠加/4回) (共同) 国際生活機能分類の視点から、運動器疾患に伴う日常生活活動低下事例の健康科学モデルを学習する。</p> <p>(㉘ 山根 主信/2回) 国際生活機能分類の視点から、内部障害系疾患に伴う日常生活活動低下事例の健康科学モデルを学習する。</p> <p>(① 谷内 幸喜・⑬ 大西 忠輔・㉘ 横井 悠加/2回) (共同) 問題点を明確に把握することで、修士論文作成プログラムに繋げる。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
共通科目	健康科学特論 II	<p>国際生活機能分類の「心身機能・身体構造」について理解を深め、健康科学の実践に必要な基礎的な内容を学ぶ。特に、筋力低下、筋萎縮、関節可動域制限などの運動機能障害の概要と、これらが「基本動作」「スポーツ動作」に及ぼす影響について学ぶ。また、運動習慣やスポーツ活動が運動機能や身体活動・パフォーマンスに及ぼす効果、さらに高齢者の健康と関連の深い代謝機能、血管機能に及ぼす影響について学習し、運動機能障害のリハビリテーションの基盤となる知識を身につける。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(② 森藤 武/4回) 筋機能の低下について病態やメカニズムを学び、筋機能改善へのアプローチについて基礎的な知識を身に付ける。 また、スポーツ活動が運動機能、身体構造、パフォーマンス、健康に及ぼす効果や課題について学習する。</p> <p>(③ 烏野 大/3回) 健康や運動機能と循環機能および疼痛の関連について知識を身に付ける。</p> <p>(⑭ 森下 勝行/2回) 関節可動域制限の基礎、拘縮の病態と発生メカニズム及び治療の考え方を学び、健康や運動機能と関節可動域の関連について知識を身に付ける。</p> <p>(⑵ 栗原 靖/2回) 運動機能障害を有する対象者のバイオメカニクスについての理解を深め、介助動作との関連について知識を身に付ける。</p> <p>(⑮ 中尾 英俊/2回) 下肢機能が動作に及ぼす影響について学び、下肢機能を改善するアプローチの基本的知識を身に付ける。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	健康科学特論Ⅲ	<p>健康科学の大きな役割の一つとして、超長寿社会の鍵となる健康寿命の延伸が挙げられる。健康寿命の延伸には要介護状態にならないために、地域住民主体による自助・互助活動を促進するための健康科学の専門家による適切な支援が必要である。本科目では、要介護状態を予防するための方策について、障害や老化による姿勢制御能力および認知機能低下へのアプローチを理解することに加えて、住民主体での地域づくりによる介護予防の方策の概要について学修する。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(④ 竹内 弥彦/4回) 地域包括ケアシステム、地域共生社会における介護予防の位置づけを踏まえ、各専門職の役割について学修する。また、加齢変化による姿勢制御能力の低下に伴う高齢者の転倒や、軽度認知障害について、その特性や予防等について学修する。</p> <p>(②② 桑江 豊/3回) ユニバーサルデザインを用いた物事の視点を学修し、地域の現状と課題について、ディスカッション等を通して理解を深める。</p> <p>(②⑥ 窓場 勝之/3回) 地域で暮らす高齢者の身体・認知機能の特性や身体機能評価項目とその解釈を学修する。さらに地域の介護予防対策について調査・ディスカッションを行い、地域アセスメントの理解を深める。</p> <p>(②⑦ 安齋 紗保理/3回) 地域活動の強化の観点からヘルスプロモーション活動の方法と地域診断について学修する。また、地域住民の支えあいや支援体制づくりの観点から、リハビリテーションの取り組む課題を学修する。</p>	オムニバス方式
	健康科学特論Ⅳ	<p>健康に影響する「個人因子」として欠かせない、人の「心理」と「発達」および、それへの支援に関して、健康科学の実践に必要な基礎的内容を学ぶ。基礎心理学、発達心理学の基礎的理論を概観した上で、個人としての人の「心理」・「発達」から「環境」との相互作用へ、さらに、それらへの支援へと視点を広げていく。個性のある一人の人が、周りの人や環境と相互作用しながら、より健康に生活していく支援を考えるための一基盤となる知識を身に付ける。</p>	
	健康科学特論Ⅴ	<p>健康に関する多くの情報が飛び交っているが、それらの情報が正しいかどうか、また、どのような機序でどの程度、どのような効果があるのか明らかになっていないことが多い。様々な方面から健康について学び、健康に関する正しい情報を選別できる目を養い、人々の健康を支援する医療職の役割についてQOL向上の視点から考え、探求する。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代/3回) 健康の概念について、健康モデルを用いて学修する。健康モデルの4つのモデル（臨床モデル、役割遂行モデル、適応モデル、幸福モデル）の構造における相互関係について学修する。</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代・⑧ 北田 素子/10回) (共同) 日本における健康水準の現状、統合医療や健康増進プログラム、健康増進施策について学修する。また、栄養、食生活、たばこ、アルコール、糖尿病、循環器疾患、がんが健康及びQOLに及ぼす影響、こころの健康について学修する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	健康科学特論VI	薬学領域における基礎的な内容に関して、その原理を踏まえて学ぶことで、「くすり」に対する正しい知識を身につけるとともに、薬学的視点から健康科学に対してアプローチするための基盤となる能力を養う。	
健康科学基盤科目	実践カウンセリング特論	保健・医療・福祉分野の対人援助においては、初回の間診（インテーク）ひとつをとっても、カウンセリングの技法が必要とされることが多い。本科目では、保健・医療・福祉職が、臨床現場で心理的支援を行う上で必要になる、カウンセリングの基礎的な理論と知識、態度、技術、および心理支援の倫理的側面について学習する。講義形式と、映像教材やロールプレイによる実践的演習を組み合わせを行い、カウンセリングの技法を現場の支援で使うことができる力を養う。	
健康科学基盤科目	マネジメント特論	保健・医療の質を向上させるために構築すべき、組織や制度、及びその構成要素について探求する。その上で、管理的視点をもって、それらの問題点および改善方法について考察する。保健・医療の高度専門職業人として、組織、制度、その構成要素に働きかけながら、包括的に地域医療、地域の健康増進に貢献するためのリーダーシップ能力を養う。	
	地域包括ケア特論	団塊の世代が75歳以上となる2025年以降に向けて、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、市町村ごとに地域包括ケアシステムを構築している。このシステムの中に医療福祉行政職者は、サービスを提供する側として組み込まれているという視点を持つことがまず第一歩であり、施設のある市町村の地域包括ケアシステムを理解することが、この授業の狙いのひとつである。地域包括ケアシステムの構築には、地域特性や職種の専門性を理解することが重要であり、その上で成り立つ多職種連携について理解することも、この授業の狙いのひとつである。さらに、地域包括ケアシステムを構築するための具体的な研究方法の方向性を探求することで、地域における実践者として地域における「健康」を洞察し、地域包括ケアシステムの中での実践力を養成することを目指す。	
	バイオサイエンス技術特論	疾患を進化の視点から考える分野に進化医学がある。私は進化医学をさらに遺伝子に絞り、遺伝子の分子進化から疾患を考える分子進化医学を提唱している。我々の研究室では分子進化医学の研究を3つのテーマで研究を進めている。1つ目は、ヌタウナギ科乳酸脱水素酵素（LD）の研究である。遺伝子の変異が起こりやすい部位が疾患と関係している可能性を脊椎動物の祖先型のLDから明らかにした。2つ目の研究は、ヌタウナギ科心臓の研究である。エコー、CT-SCAN、組織学的手法を用いて分析し、ムラサキヌタウナギの4つの心臓とその血管系を解明した。3つ目は、マイクロ遺伝子重合法を用いた新型コロナウイルス（SARS CoV-2）のエピトープペプチドワクチンの開発である。これらの研究を、基礎医学技術の視点から紹介したい。	
	臨床工学特論	医療の現場で重要性が増しているドラッグデリバリーシステム（DDS）や抗体医薬品、ワクチン、再生医療の、医療および工学に関する基礎的な内容を学ぶ。さらに、医療機器について学び、臨床工学技術の基盤となる知識を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究基盤科目	統計学基礎特論	<p>統計的手法を用いた学術論文を読んで理解したり、保健・医療・福祉職が臨床現場で出会う疑問について、実際に研究デザインを組むために必要になる基礎的統計手法について学習する。統計は、説明を理解すれば使いこなせるものではないため、講義と、統計を用いた研究論文の抄読、事例・架空のデータセットを用いた演習を組み合わせて行う。授業の後半では、学生の臨床での疑問を題材としてとりあげ、それを解決するための統計的研究デザインを立案するところまでを行う。</p>	
	研究方法特論	<p>研究方法の種類と概要（質的研究、量的研究、実験研究）、研究のプロセス（研究計画から発表まで）、研究倫理を学ぶ。研究計画と研究論文を作成する際の基盤となるよう理解を深める。研究倫理については、倫理行為を判断、遵守するための具体的な手続きについて探求する。 （オムニバス方式／全13回）</p> <p>（⑤ 四十竹 美千代／3回） 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を用い、研究実施に伴う倫理行為の判断、遵守のための具体的な手続きを探求する。また臨床で活用される研究やその科学性・客観性を理解し、質的研究の種類と概要について学修する。</p> <p>（⑨ 大橋 優紀子／3回） 量的研究の種類と概要、調査研究の実際について学修する。また、研究対象者の定義とサンプリング方法を理解する。</p> <p>（② 竹内 一成／1回） 実験研究の種類と概要およびその実際について学修する。</p> <p>（② 森藤 武／1回） 文献検索法と整理方法、文献クリティークについて学修する。</p> <p>（① 谷内 幸喜／1回） 研究計画書の意義と作成方法について学修する。</p> <p>（④ 竹内 弥彦／1回） 研究論文の構成と作成方法について学修する。</p> <p>（⑤ 四十竹 美千代・⑨ 大橋 優紀子・① 谷内 幸喜・② 森藤 武・④ 竹内 弥彦・② 竹内 一成／3回）（共同） 課題論文について、論文クリティークを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康薬科学特論	<p>人の健康とQOL向上に寄与する基礎医学技術に関して、主に製剤学的観点から学ぶ。具体例を挙げて学習を進めることで、実践的な知識を身につけるとともに、現代の健康課題に対応するために必要な柔軟な発想力を養う。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(㉒ 竹内 一成/2回) 微粒子製剤を中心としたドラッグデリバリーシステム (DDS) について、製剤設計および薬物投与経路に関する知識とともに学習する。</p> <p>(㉑ 秋元 雅之/1回) 薬物間相互作用によるクリアランス変化に伴い血中濃度変化を生じる薬物について、相互作用の発現機序を知り、用量設定にどの様に反映させるかを理論的に考察する。</p> <p>(㉓ 山村 重雄/1回) 腎機能の低下に伴う血中濃度が変化する薬物と腎機能を考慮した薬物投与設計について理論的に考察する。</p> <p>(㉔ 後藤 武/2回) 局所性の貼付剤・全身性の経皮吸収型製剤・経口DDS製剤の製剤設計の考え方から、添加剤組成の知識と理論を学習する。</p> <p>(㉕ 大森 直哉/2回) 核酸や遺伝子を使った製剤 (ワクチンを含む) に不可欠なDDSの考え方や添加剤組成の知識と理論を学習する。</p> <p>(㉖ 西口 慶一/3回) エピトープペプチドワクチンを作成する基礎的な遺伝子工学の技術の紹介する。</p> <p>(㉗ 神谷 貞浩/2回) 病原を特定するための方法やデバイスについて、抗原-抗体反応を引き起こすタンパク質の基礎とともにその仕組みを学習する。</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康薬科学演習	<p>健康薬科学特論で学習した内容を基盤に、学術研究における課題に関して討論することにより、その問題点および解決方法について検討する。このような活動を通じて、研究目的を達成するために重要な、科学的な問題解決能力を養う。 (オムニバス方式／全26回)</p> <p>(⑫ 竹内 一成／5回) 最新の学術研究や各自の学術研究における課題について、主に製剤学的観点から問題点やその解決方法を討論するとともに、研究目的を達成するために最適な研究技法を探索し、以後の研究方針を決定するための幅広い視野を養う。</p> <p>(⑪ 秋元 雅之／2回) 肝薬物代謝に注目し、主に肝消失型医薬品の相互作用の発現機序を学習する。さらに代謝活性の変動に関わる薬物動態パラメータの変化に着目し、それらが変化した場合の血中濃度推移をEXCEL等の表計算ソフトを用いて推定を行い、薬物療法の適正化の必要性を理解する。</p> <p>(⑬ 山村 重雄／2回) 薬物動態学の理論から、腎機能が低下した場合の血中濃度を推定するソフトを用い、添付文書情報をもとに投与設計を行う。</p> <p>(⑦ 後藤 武／4回) 局所性の貼付剤・全身性の経皮吸収型製剤・経口DDS製剤の製剤設計について討論することにより、製剤設計は科学的な有用性だけでなく、患者（使用者）の利便性も重要であることを学び、以後の研究方針を決定するための幅広い視野を養う。</p> <p>(⑧ 大森 直哉／4回) 抗体・核酸・遺伝子を含む医薬（ワクチンを含む）に不可欠なDDSの考え方について討論することにより、最適で最短で開発する上で重要となることを学び、以後の研究方針を決定するための幅広い視野を養う。</p> <p>(⑩ 西口 慶一／5回) 遺伝子工学の技術（トランスフォーメーション、PCR法、アガロースゲル電気泳動、プラスミドDNAの抽出および制限酵素処理）の実験と討論を行う。</p> <p>(⑨ 神谷 貞浩／4回) 抗原-抗体反応を題材とした実験を行い、得られた結果についてその意義を討論、問題点を抽出する。さらに研究目的を達成するための解決方法（技法や条件等）を検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床看護学特論	<p>臨床における患者の問題を多面的に分析し、QOL向上にむけての看護援助方法を理論と実践の視点で考察する。さらに、臨床看護の質の向上に役立つ、科学的でかつ専門的な看護技術の開発に関する方法論についての理解を深める。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代/3回) 患者や問題を多面的に分析し、QOL向上にむけての看護援助の基盤となる看護援助を分析した内容を発表し、実践への適用と研究的な課題について討議する。</p> <p>(⑥ 鈴木 明子/2回) 在宅および地域の人々の健康課題や家族の心理的、社会的側面について学ぶ。事例を振り返り、心理的、社会的側面について理解を深める。</p> <p>(⑱ 北田 素子/2回) 成人期の人の健康課題や家族の心理的、社会的側面について学ぶ。事例を振り返り、心理的、社会的側面について理解を深める。</p> <p>(⑳ 松尾 尚美/3回) 慢性期の人の健康課題や家族の心理的、社会的側面について学ぶ。事例を振り返り、心理的、社会的側面について理解を深める。</p> <p>(㉑ 中野 元/3回) 急性期の人の健康課題や家族の心理的、社会的側面について学ぶ。事例を振り返り、心理的、社会的側面について理解を深める。</p>	オムニバス方式
	臨床看護学演習	<p>臨床看護学領域における臨床看護学特論で学修した理論と実践を基盤に、研究的視点から研究課題を見出し、科学的な過程をふまえて、臨床看護学の現場において実践的課題を解決へ導く多様な方法を学習する。 (オムニバス方式/全26回)</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代/1回) 看護研究・看護実践における生体反応指標および面接法、尺度等の測定、調査する方法を幾つか体験するとともに、それらの手法を用いて、看護援助の効果を評価する方法についての専門的知識を学ぶ意義について講義する。</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代・⑱ 北田 素子・㉑ 中野 元/12回) (共同) 生体反応指標を用いた研究について、データ収集方法の検討や研究計画書の作成を行う。また、実際にデータの収集、分析を行い、そのプロセスを振り返る。</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代・⑥ 鈴木 明子・㉑ 松尾 尚美/12回) (共同) 面接法、尺度等を用いた研究について、データ収集方法の検討や研究計画書の作成を行う。また、実際のデータ収集、分析を行い、そのプロセスを振り返る。</p> <p>(⑤ 四十竹 美千代・⑥ 鈴木 明子・⑱ 北田 素子・㉑ 松尾 尚美・㉑ 中野 元/1回) (共同) 臨床看護学援助理論を基盤に、科学的な視点により、臨床現場の実践的課題を解決へ導く方法論についてまとめる。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生涯発達学特論	<p>健康科学特論VIで学んだ発達心理学の基礎を土台に、ライフステージに応じた心身の発達と健康課題について学習を深める。生涯発達の過程における健康課題にアプローチする上で必要となる、対象の発達を多面的に捉える力を身に着ける。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(⑨ 大橋 優紀子/1回) 胎児期の発達、発達のエピジェネティックの講義から、人の発達・健康と環境の相互作用について検討する。</p> <p>(⑨ 大橋 優紀子・⑰ 二宮 彩子・⑩ 清水 清美・⑯ 宮澤 純子・⑱ 川久保 悦子/12回) (共同) 発達の基礎的理論と、ライフステージに応じた発達課題と影響因子について学修することで、対象の健康課題への洞察を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	生涯発達学演習	<p>生涯発達看護学特論で学習した、人の発達の多面的理解を土台に、ライフステージに応じた健康課題とそれへの支援について学ぶ。学生による主体的な学習を重視し、事例を通じた討論を中心とする。事前事後課題と全26回の授業プロセスを通して、生涯発達を支援することで健康課題を解決に導く多様なアプローチを学び、自ら支援を計画できる力を身に着ける。</p> <p>(⑨ 大橋 優紀子・⑰ 二宮 彩子・⑩ 清水 清美・⑯ 宮澤 純子・⑱ 川久保 悦子/26回) (共同) ライフステージに応じた健康課題への支援方法について検討し、臨床におけるクリニカルクエスチョンをリサーチクエスチョンに落とし込み、研究研究への基盤とする。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	臨床リハビリテーショ ン学特論	<p>健康科学特論Ⅰで学んだ日常生活活動低下への問題解決に当たる場合の「健康科学モデル」を土台に、日常生活活動向上にむけてのリハビリテーションを理論と実践の視点で考察する。さらに、日常生活活動低下の原因疾患ごとにおけるリハビリテーション論から、科学的でかつ専門的なリハビリテーション技術の開発に関する方法論についての理解を深める。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(① 谷内 幸喜/4回) 日常生活活動向上にむけてのリハビリテーションを理論と実践の視点で学習する。また、神経系疾患に伴う機能的変化から日常生活活動向上にむけたリハビリテーションの方略について講義と文献から学習する。</p> <p>(⑬ 大西 忠輔/2回) 日常生活活動向上にむけての装具療法を理論と実践の視点で学習する。</p> <p>(⑳ 横井 悠加/2回) 運動器系疾患に伴う機能的変化から日常生活活動向上にむけたリハビリテーションの方略について講義と文献から学習する。</p> <p>(㉑ 原田 恭宏/2回) 日常生活活動向上にむけての徒手療法を理論と実践の視点で学習する。</p> <p>(㉒ 山根 主信/2回) 内部障害系疾患に伴う機能的変化から日常生活活動向上にむけたリハビリテーションの方略について講義と文献から学習する。</p> <p>(① 谷内 幸喜・⑬ 大西 忠輔/1回) (共同) 「健康科学モデル」を日常生活活動の低下にいたる原因と、日常生活活動向上にむけてた問題解決能力の方法の両視点から学習する。</p>	オムニバス方 式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床リハビリテーション学演習	<p>リハビリテーション学領域における生活支援系リハビリテーション学特論で学修した理論と実践を基盤に、研究的視点から研究課題を見出し、科学的な過程をふまえて、リハビリテーション学の実践に寄与する研究能力を養う。 (オムニバス方式/全26回)</p> <p>(① 谷内幸喜/4回) 各種神経系疾患の病理・病態・症状などを整理し日常生活活動低下を具体化する。さらに、日常生活活動向上に向けてのリハビリテーションを実践する。また、自身の臨床経験をもとに、神経系疾患に伴う日常生活活動の向上にむけたリハビリテーションの方略を提示し、問題解決過程を演習する。</p> <p>(⑬ 大西忠輔/4回) 日常生活活動の低下にいたった原因ごとに装具療法の実際を演習する。さらに自身の臨床経験などから、装具療法が適応となった事例を提示し、それをもとに問題解決過程を演習する。</p> <p>(⑲ 横井 悠加/4回) 各種運動器系疾患の病理・病態・症状などを整理し日常生活活動低下を具体化する。さらに、日常生活活動向上にむけてのリハビリテーションを実践する。また、自身の臨床経験をもとに、運動器系疾患に伴う日常生活活動の向上にむけたリハビリテーションの方略を提示し、問題解決過程を演習する。</p> <p>(⑳ 原田 恭宏/4回) 日常生活活動の低下にいたった原因ごとに徒手療法の実際を演習する。さらに自身の臨床経験などから、徒手療法が適応となった事例を提示し、それをもとに問題解決過程を演習する。</p> <p>(㉑ 山根 主信/4回) 各種内部障害系疾患の病理・病態・症状などを整理し日常生活活動低下を具体化する。さらに、日常生活活動向上にむけてのリハビリテーションを実践する。また、自身の臨床経験をもとに、内部障害系疾患に伴う日常生活活動の向上にむけたリハビリテーションの方略を提示し、問題解決過程を演習する。</p> <p>(① 谷内 幸喜・⑬ 大西 忠輔・⑲ 横井 悠加・⑳ 原田 恭宏・㉑ 山根 主信/6回) (共同) 日常生活活動低下にいたる原因と、問題解決能力の方法の両視点から、研究計画(修士論文)にむけた準備し、問題解決に至る過程のプレゼンテーションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域系リハビリテーション学特論	<p>健康科学特論Ⅲで学修した介護予防方策の概要を基に、本科目ではフレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアおよび認知機能低下の予防を主に介護予防を目的とした地域リハビリテーションの展開方法の概要について学ぶとともに、住民主体での地域づくりによる介護予防の方策についての理解を深める。 (オムニバス方式/全13回)</p> <p>(④ 竹内 弥彦/4回) 介護予防の観点からフレイル、ロコモティブシンドローム、軽度認知障害の特性を理解し、それぞれの評価法および予防法について学修する。</p> <p>(② 桑江 豊/3回) 地域在住高齢者のICT活用状況の理解とその普及するための支援方法について理解を深める。 また、ICTを活用した介護予防事業とその運営課題について理解を深め、現状と課題について検討する。</p> <p>(⑥ 窓場 勝之/3回) 地域で生活する高齢者を中心に、装具療法を实践した高齢患者がもとの生活に戻れるか、解析結果をもとに検討し問題点を抽出する。 また、活動量低下予防を目的としたアセスメントについて理解し、行政等との協働のもと、専門性を活用した介護予防を目的とする地域活動の方策を学修する。</p> <p>(⑦ 安齋 紗保理/3回) 地域リハビリテーションの観点から、ソーシャルキャピタルの重要性を学修する。 地域において取り組むべき課題を明らかにするための「地域診断」の手法を学修する。 介護予防から考えるヘルスプロモーションについて、行政で実施する具体例を紹介する。</p>	オムニバス方式
	地域系リハビリテーション学演習	<p>地域系リハビリテーション学特論で学修した内容を基に、介護予防を目的とした地域リハビリテーションの具体的な展開方法について学修する。学生が所属する職域や地域における課題を取り上げ、演習形式での学修を通じて職域や地域ごとの課題解決に向けた介護予防方策を計画できる力を身に着ける。 (オムニバス方式/全26回)</p> <p>(④ 竹内 弥彦/8回) 加齢変化による高齢者の身体・認知機能特性を踏まえた具体的な介護予防の方策について、どのようなアプローチができるかについて演習形式で検討を行う。</p> <p>(④ 竹内 弥彦・② 桑江 豊・⑥ 窓場 勝之・⑦ 安齋 紗保理/6回) jSTATを始めとする商圈分析ツールや国勢調査を用いた地域分析を学び、各学生の専門性から導いた地域の医療介護資源の問題点と解決方法について演習形式で探求する。</p> <p>(⑥ 窓場 勝之/6回) 障害を有する地域在住高齢者の生活を支援するための問題点のアセスメント方法と研究方法論について、可能性と限界を学修する。</p> <p>(⑦ 安齋 紗保理/6回) 介護予防や健康増進におけるポピュレーションアプローチについて、学生の職場もしくは居住する地域において、各学生の専門性から検討する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	運動機能障害系リハビリテーション学特論	<p>本科目は「専門科目」に区分されている。本科目では、健康科学特論Ⅱで学習した運動機能障害と健康やQOLとの関連、運動機能障害へのアプローチの概要を基盤とし、骨格筋、柔軟性などの運動機能や身体活動・パフォーマンスの低下に対する運動、スポーツ、リハビリテーションなどの戦略について学習する。さらに、運動機能障害に対する今後の展望について考えることができる素地を養う。以上より、学童期から高齢者までの健康課題を考え、運動機能を向上させるアプローチを考える力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(② 森藤 武／4回) 代表的なスポーツ傷害に対する評価・治療の基礎知識を学び、体幹・上肢スポーツ傷害に対するリハビリテーションの考え方を身につける。 身体不活動や糖尿病をはじめとする生活習慣病によって引き起こされる筋機能の低下に対する具体的なアプローチを学び、筋機能改善に対するリハビリテーションの考え方を身につける。</p> <p>(③ 烏野 大／3回) 運動機能のシステムの特徴を解明するために、生体工学的手法を用いた評価方法を利用する基盤となる知識や考え方を身に付ける。</p> <p>(⑭ 森下 勝行／2回) 主にリハビリテーションの対象障害の上位となる疼痛や可動域制限、筋力低下等を起因とする運動機能障害を中心に、その改善に向けた治療アプローチを病期・症状によって選択・適用できるように、組織治癒過程における病理学的メカニズムを学修し、臨床症状によって治療条件を判断する臨床推論能力を養うことを目指す。</p> <p>(⑮ 中尾 英俊／2回) 下肢・足部機能障害に対する評価・治療の基礎知識を学修し、下肢・足部スポーツ傷害に対するリハビリテーションの考え方を身につける。</p> <p>(⑳ 栗原 靖／2回) 力学の基礎知識を中心に、ヒトの動きをみる方法について学修し、運動機能障害の評価・治療において、力学的に物事を考え、臨床意思決定を判断できるような推論能力を養う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	運動機能障害系リハビリテーション学演習	<p>運動機能障害系リハビリテーション学特論で学んだ概要を基盤とし、運動機能障害や、身体活動・パフォーマンスの低下に対する具体的なアプローチについて演習形式で学習する。また、臨床等の経験から日常生活やスポーツ場面などで抱えている運動機能障害と関連した疑問や課題について捉えることができるようになる。また、それらを解決するための具体的なアプローチや計画を提案することができる実践力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全26回)</p> <p>(② 森藤 武/7回) アスリートに対する上肢・体幹の機能評価・分析をメディカルチェック等の現場にて実践できる力を養う。 また、血流制限等の物理的手段を学び、筋萎縮や筋機能障害に対する具体的な評価・アプローチを提案できる実践力を身につける。</p> <p>(③ 烏野 大/7回) 主に表面筋電図、近赤外線分析法、組織硬度計などの評価方法を活用し、随意的筋収縮時や物理的刺激（電気刺激）時の筋機能の反応を含めて、筋機能の特徴を理解する。これらの評価方法と分析手順を学ぶことで、運動機能に対する理解を深め実践力を養う。</p> <p>(⑭ 森下 勝行/4回) 主に超音波画像評価法による超音波解剖の理解、筋厚・筋輝度・スティフネス分析の手法を習得し、安静時と筋収縮時、ストレッチングやトレーニング後、物理的刺激後（電気刺激・温熱刺激）による生体反応の違いを確認し、骨格筋特性と運動機能の評価・治療についての実践力を養う。</p> <p>(⑮ 中尾 英俊/4回) アスリートに対する下肢・足部の機能評価・分析をメディカルチェック等の現場にて実践できる力を養う。</p> <p>(⑳ 栗原 靖/4回) 三次元動作解析装置を用いた評価方法を活用し、立ち上がり動作や歩行など、基本的動作から得られる特徴を理解し、実践力を養う。</p>	オムニバス方式



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	<p>教員から指導を受けながら、各自のテーマについて研究課題を設定し、研究計画に基づいた研究を実際に行い、論文を作成する。臨床現場の課題を研究課題として明確化するところから、研究計画の立案、倫理審査への対応、データ収集、分析、研究成果の論文執筆までの一連のプロセスを、経験を通して習得する。</p> <p>(22) 竹内 一成 肝臓による初回通過効果の影響を受けない全身および局所投与が可能な皮膚または粘膜吸収型製剤に関して研究指導を行う。</p> <p>(11) 秋元 雅之 肝代謝酵素を介した相互作用についての試験と臨床的意義について研究指導を行う。</p> <p>(12) 山村 重雄 生活者や患者の健康・QOLの認識に対し、生活スタイルや社会環境、健康状態が与える影響および健康的な生活を維持するための具体的な取り組みについて研究指導を行う。</p> <p>(7) 後藤 武 免疫学的な作用により抗炎症効果を期待する物質に関して、投与経路や体内動態を考慮した製剤学的な工夫により、薬物治療の有効性・安全性・信頼性を高め、担保するための研究指導を行う。</p> <p>(8) 大森 直哉 有害作用や相互作用などの特性から使用方法の限られる物質に関して、投与経路や体内動態を考慮した製剤学的な工夫により、薬物治療の有効性・安全性・信頼性を高め、担保するための研究指導を行う。</p> <p>(5) 四十竹 美千代 主に手浴の効果検証、成人期の患者における効果的なケア検証について研究指導を行う。</p> <p>(6) 鈴木 明子 高齢化しつつあるHIV陽性者が長期に渡り地域で療養できる体制を構築するための仕組みづくりについて研究指導を行う。</p> <p>(9) 大橋 優紀子 親子の相互作用や愛着の障害、その影響要因の解明、親子のメンタルヘルスとそのケア、ペアレンティング介入、虐待予防など、親子の関係性に関わる研究テーマを取り扱う。また、心理アセスメント法の開発や、専門職に対する心理援助教育の効果等の研究指導を行う。</p> <p>(10) 清水 清美 思春期教室や両親学級の在り方、不妊・生殖医療を受ける女性やカップルの支援、精油を用いたトリートメントのケア効果等、リプロダクティブヘルス/ライツの視点をもった健康支援、発達支援、家族支援方法、癒しのケアについて研究指導を行う。</p> <p>(16) 宮澤 純子 予防的視点からプレコンセプションケア、在日外国人妊産婦支援、周産期メンタルヘルス、包括的母乳育児支援、子ども虐待予防等について研究指導を行う。</p> <p>(17) 二宮 彩子 主に高齢者を対象とした看護や介護の質、多職種連携、看取り等について研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	<p>(18) 北田 素子) 看護基礎技術の効果や方法を、エコー、サーモグラフィ、圧測定器などの機器を用いて可視化し、評価検証する実験研究や実態調査研究の指導を行う。</p> <p>(19) 川久保 悦子) 「認知症を持ち生活している高齢者」への実践的看護介入に関する研究。認知症高齢者に関する研究課題を取り上げ指導する。</p> <p>(1) 谷内 幸喜) 臨床場面等での出張指導を通して科学的分析を含めた、日常生活活動能力向上のための手段としてのリハビリテーション学について研究指導を行う。</p> <p>(13) 大西 忠輔) 科学的分析を含めた研究と義肢装具士/理学療法士による実際の場面(職場等)での出張指導を通じた、日常生活活動能力向上のための装具療法学について研究指導を行う。</p> <p>(2) 森藤 武) スポーツ選手から高齢者まで傷害・障害に関わる因子を探究し、運動機能障害を予防・改善するための研究指導を行う。</p> <p>(3) 烏野 大) 物理的エネルギーが運動機能や神経機能に与える効果を明らかにするための研究指導を行う。</p> <p>(4) 竹内 弥彦) 高齢者や障害を有する方の転倒のメカニズムやその予防方略について姿勢調節能の観点からの研究指導を行う。さらに転倒予防に有効な運動介入の開発から、介護予防につながる住民主体の地域づくりの方策立案まで、多角的に地域リハビリテーションに関連した研究テーマを取り扱う。</p> <p>(14) 森下 勝行) ヒト(若年者・高齢者・患者・スポーツ選手)の運動機能を工学的手法により明らかにすることと、運動機能障害を予防・改善する物理療法と運動療法の新たなハイブリッド治療を開発するための研究指導を行う。</p> <p>(15) 中尾 英俊) スポーツ選手に起こりやすい傷害に対し、多角的な評価を行うことで関連する要因を検討し、新たな予防方法やアプローチ方法を提案できるよう研究指導を行う。</p> <p>(25) 栗原 靖) 三次元解析装置を用い、整形外科疾患の病態に関わる因子の検証および、傷害・障害の治療・予防効果を検証するための研究指導を行う。</p>	

## 補足資料（組織の移行表）

## 学校法人城西大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>城西国際大学</b>				<b>城西国際大学</b>				
経営情報学部				経営情報学部				収容定員変更(届出)
総合経営学科	400	3年次 20	1,640	総合経営学科	410	3年次 30	1,700	定員変更(10) 編入学定員変更(10)
国際人文学部				国際人文学部				
国際文化学科	80	—	320	国際文化学科	80	—	320	
国際交流学科	120	3年次 10	500	国際交流学科	120	3年次 10	500	
福祉総合学部				福祉総合学部				
福祉総合学科	140	3年次 5	570	福祉総合学科	140	3年次 5	570	
理学療法学科	80	—	320	理学療法学科	80	—	320	
薬学部				薬学部				
医療薬学科(6年制)	130	—	780	医療薬学科(6年制)	110	—	660	定員変更(△20)
メディア学部				メディア学部				収容定員変更(届出)
メディア情報学科	360	3年次 20	1,420	メディア情報学科	370	3年次 30	1,540	定員変更(10) 編入学定員変更(10)
観光学部				観光学部				
観光学科	100	—	400	観光学科	100	—	400	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
計	1,510	3年次 55	6,410	計	1,510	3年次 75	6,410	
<b>城西国際大学大学院</b>				<b>城西国際大学大学院</b>				
人文科学研究科				人文科学研究科				
比較文化専攻(D)	6	—	18	比較文化専攻(D)	6	—	18	
国際文化専攻(M)	15	—	30	国際文化専攻(M)	15	—	30	
女性学専攻(M)	15	—	30	女性学専攻(M)	7	—	14	定員変更(△8)
グローバルコミュニケーション専攻(M)	25	—	50	グローバルコミュニケーション専攻(M)	25	—	50	
経営情報学研究科				経営情報学研究科				
起業マネジメント専攻(D)	6	—	18	起業マネジメント専攻(D)	6	—	18	
起業マネジメント専攻(M)	36	—	72	起業マネジメント専攻(M)	36	—	72	
福祉総合学研究科				福祉総合学研究科				
福祉社会専攻(M)	25	—	50	福祉社会専攻(M)	25	—	50	
ビジネスデザイン研究科				ビジネスデザイン研究科				
ビジネスデザイン専攻(M)	30	—	60	ビジネスデザイン専攻(M)	30	—	60	
薬学研究科				薬学研究科				
医療薬学専攻(D)	3	—	12	医療薬学専攻(D)	3	—	12	
国際アドミニストレーション研究科				国際アドミニストレーション研究科				
国際アドミニストレーション専攻(M)	35	—	70	国際アドミニストレーション専攻(M)	35	—	70	
				<u>健康科学研究科</u>				研究科の設置(認可申請)
				健康科学専攻(M)	8	—	16	
計	196		410	計	196		410	